

コーユーレンティア株式会社

基幹データ活用のレベルアップに向けて ユーザーが自らの手でデータを抽出・加工する環境を整備 PHPQUERYの導入で100 ~ 200名単位の利用ユーザー拡大を目指す

本 社:東京都港区 設 立:1970年

資 本 金:8億7428万円

売 上 高:150億5046万円(2020年12月期、 単独)、215億5636万円(同、連結)

従業員数:373名(2020年12月期、単独)、 662名(同. 連結)

事業内容:FF&Eレンタル業。建設業界·不動産 業界・イベント業界をはじめ、国内外の企業向け に家具、什器、備品をレンタル。

https://www.koyou.co.jp/

レンティアグループは現在、グループ6社がシナ ジー効果を活かしつつ、レンタル事業、スペース デザイン事業、物販事業を展開している。そのな かでコーユーレンティアは、同グループの 「FF&E (Furniture、Fixtures and Equi pment) レンタル業」を中核とする事業会社で、 建設現場事務所や不動産販売センター、各種イ ベントなどのレンタルニーズに対応している。 2020年に創業50周年を迎え、東京証券取引所 JASDAQ市場に上場を果たした。2021年には リモートミーティングなどの需要に向けてフル クローズ型のワークブースである「HACO BOOTH」の提供を開始するなど、新たな市場の 開拓に取り組んでいる。



情報システム部 副部長



情報システム部

基幹データ活用のレベルアップに 「PHPQUERY」を導入

コーユーレンティアは2003年に国産オ フコンからIBM iへ移行し、基幹システムを 全面再構築した。販売管理・物流・在庫管 理を軸に、RPGによる独自開発型のシステ ムとして完成させている。

現在は同社を含むグループ4社がIBM i上 で基幹システムを運用している。2016年 には業態や事業内容の異なる4社それぞれ の特性や独自ニーズに対応するため、大規 模なシステム改修に取り組んだ。さらに 2020年夏にはPower SystemsをPOWER 9ヘリプレースしている。

基幹データのさらなる活用を目指して、 「PHPQUERY」(オムニサイエンス)を導 入したのは2020年10月のことである。本 格的に利用を開始したのは、翌2021年1 月からだ。

同社では以前からQuery/400を使って 情報システム部が基幹データを抽出し、管 理部門や営業部門を中心に定期的にデータ を配布することで、各部門でのデータ活用 を進めてきた。データの配布対象は帳票数 にして約500種類、蓄積されているクエリ 一数は(使用頻度の低いものを含めて)約 5300本に上る。

課題になっていたのは、このデータ加工・ 配布に関わる情報システム部内での作業工 数の多さである。部門から要望が寄せられ るたびにQuery/400で定義を作成したり、こと。またIBM i上で使用できるので、追加

各部署へ定期的に一斉配信するなどの作業 に相当の工数を費やしていた。

現在、情報システム部には部長以下9名 が所属する。同部は、コーユーレンティア をはじめグループ全社のIT部門という役割 も担っている。基幹システムの運用保守か らオープン系サーバーやネットワーク、端 末管理など、IT全般を担当している。

毎月のデータ抽出作業については、3名 のスタッフが担当しており、とくに月次処 理の締め日直後はデータ抽出・配信作業に 多くの工数を費やすという。

「こうしたクエリー定義や配布の作業を自 動化・効率化するとともに、エンドユーザ 一自身が必要な時に必要なデータを自身の 手で取得できるような環境整備が必要であ ると考えていました」と語るのは、情報シ ステム部の真壁昭夫副部長である。

同社がその課題解決に向けて選択したの が、PHPQUERYである。本格的なBIソリ ューションからQuery/400の後継とされ るDb2 Web Query for iまで、多様な製品 を検討したが、PHPQUERYを選択した理 由について、中川健氏(情報システム部開 発チーム) は次のように指摘する。

「まずQuery/400と操作性が似ていて、 違和感なく利用できること。それに Query/400で作成したクエリーを再利用 できる点が大きかったです。それからSQL を使用できるので、Query/400で対応で きなかったニーズにもSQLでカバーできる のWindowsサーバーが不要であること。そ してユーザー数が無制限なので、今後のユ ーザー数の拡大にコスト負担なく対応でき る点などが決め手になりました」

100~200名単位で PHPQUERYのユーザー数を拡大

2021年1月の利用開始から約半年間を、 本格展開前の助走期間と位置づけ、各部門 からデータ活用に積極的な10~20名程度 のユーザーを選んで、利用を開始した。こ れに並行して、利用頻度の高い従来のクエ リー定義をPHPQUERYへ移行する作業も 進めている。6月時点で、約30%の移行が 完了したという。

月次の一斉配信など、従来からの(Que ry/400で抽出した) データ配信作業も一 部継続しているので、現時点ではQue ry/400とPHPQUERYが混在しているこ とになる。

「PHPQUERYの導入を契機に、データ活 用に対するユーザーの意識を変革していき たいと考えています。今までは情報システ ム部で抽出したデータが定期的に配布され てくるので、データ活用に対する姿勢が受 け身で、あまり明確な目的意識をもつこと なく利用していると感じていました。これ に対してPHPQUERYであれば、必要なデ ータを自分の手で自由に取得できるので、 データの活用方法を自ら積極的に考えてい けるように、変化を促していきたいと思い ます」(真壁氏)

Webインターフェースを利用した活用イ メージを定着させ、ここ1~2年の間に、グ ループ会社を含めてPHPQUERYのユーザ ーを100~200名単位で増やしていく計 画である。

「本格的なBIソリューションは高機能な分、 利用方法が複雑で、各部門のユーザーが自 らの手でデータを抽出・加工するには難易 度が高い印象です。その点、PHPQUERY

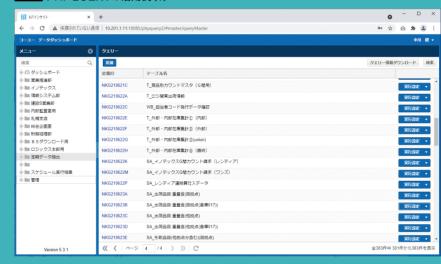
は機能がシンプルなので、ユーザー部門に も拡大しやすいと感じています。また最近、 ユーザーやアクセス権のグルーピング機能 なども搭載されたので、ユーザー数が拡大 しても、情報システム部の運用負荷が増大 するような事態は避けられると考えていま す」(中川氏)

同社では在宅勤務を支援する環境整備の 一策として現在、帳票のデジタル化やペー パレス化を進めている。Web画面でのデー

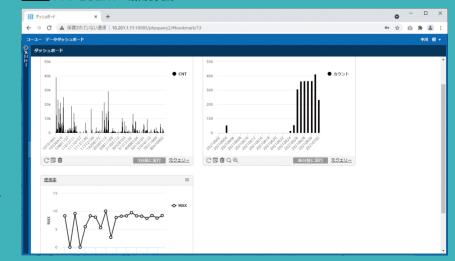
タ参照が可能になるPHPQUERYは、その 推進を担う重要な道具立てになっているよ

また今年は各部門およびグループ各社の 代表者から構成されるDX推進プロジェク トも発足した。同社にとってのDXとは何 かを追求していくプロジェクトであるが、 社員1人1人のデータ活用に対する意識が 変われば、DXの重要な推進力としても貢 献していくことになりそうだ。舟

図表1 PHPQUERYの活用例(1)



図表2 PHPQUERYの活用例(2)



28 i Magazine 2021 SUMMER 2021 SUMMER i Magazine 29